

## 第11回NPT再検討会議第2回準備委員会NGOセッション（7月23日）

## 松井平和首長会議会長（広島市長）スピーチ

平和首長会議を代表して発言する機会を与えていただいたことに感謝を申し上げるとともに、本準備委員会の開催に向けて尽力された関係者の皆様に敬意を表します。

79年前、瞬時に、広範な地域で、壊滅的な人的被害が発生した広島・長崎の被爆体験は、核兵器の使用が人類を滅亡へと導くことを明確に示しています。この事実は、核兵器廃絶の根拠となるべきものであり、我々はこれまで、核兵器は「断じて使ってはいけない兵器」であると訴え続けてきました。それにもかかわらず、現下の国際情勢では、核兵器が「条件次第で使える兵器」へとその評価が激変しており、極めて遺憾なことであると受け止めています。

他国を疑い、他国より優位に立ち続けることで自国を守ることができるでしょうか。また、そのために核戦力を強化することで、市民社会の安全と安心を担保できるでしょうか。罪のない多くの人々の命や日常生活を奪うことになるだけではありませんか。

昨年度、広島平和記念資料館の訪問者は約200万人となり、過去最多となりました。このことは、現下の国際情勢に対する警戒感の高まりが、多くの人々を被爆地に導き、核兵器使用がもたらす壊滅的な人道的結果を再確認させようとしているということです。今後も、戦争や紛争、差別や偏見などあらゆる暴力を否定し、平和を愛する市民社会の輪は大きくなっていくと確信しています。

為政者を選び支持する側である市民社会の声を軽視することがあってはなりません。40年以上にわたって世界に核兵器の非人道性を訴え、その廃絶を求めて取組を続けてきた平和首長会議は、世界の8,400を超える加盟都市とともに訴えます。各国政府代表の皆様、平和を愛する諸国民の公正と信義を信頼して、今こそ、核戦力強化や軍拡競争を肯定的に捉えることを直ちに見直し、対話による外交努力をもって、核軍縮・不拡散措置を確実に進展させようではありませんか。皆様の誠実な取組を、心から期待しています。